

歴史と伝統文化のまち「成田」には、さまざまな分野で活躍した人や郷土の発展のために尽くした人がたくさんいます。先人たちの生き方からふるさと成田の歴史に触れ、未来へ大きく羽ばたく指標となれば幸いです。

第18回 たけ お はじめ
竹尾 式

21歳でロシアに渡る

竹尾式は、明治29(1896)年12月21日、下埴生郡八生村大竹(現在の大竹)に父寅吉、母きみの長男として生まれた。寅吉は成田中学校(現在の成田高校)の教諭の傍ら、横山大観に絵画を学び、渡米し画家を目指すなどしていたため、出費がかさみ生活は苦しかった。

大正3(1914)年、式は成田中学校を卒業し、東京外国語学校(現在の東京外国語大学)露語科へ進学。同7年に卒業後、通訳官としてシベリア出兵に従軍した。そこには、外国語学校で学んだロシア語を生かし、ロシアの実情を自分の目で確かめてみたいという思いがあったようである。

その後、朝鮮銀行ウラジオストク支店に就職した。在外7年の間、ロシア革命後のソビエト連邦の生活を体験するとともに、ソ連の国情を調査研究し造詣を深めた。

衆議院議員として活躍

日本に帰国すると、報知新聞社、東京毎夕新聞の記者となった。一方で、政治家の大山郁夫を中心とする労農運動に参加するなど、政治活動にも傾倒していた。

昭和3(1928)年、労農党結成後初めての衆議院議員総選挙が行われた。労農党からは複数の候補者が擁立され、労農党千



左/記念碑(場所:宗吾霊堂内)
右/竹尾式の著作物



明治29年～昭和33年(1896～1958)

下埴生郡八生村大竹(現在の大竹)に生まれる。成田中学校(現在の成田高校)、東京外国語学校(現在の東京外国語大学)露語科を卒業し、21歳でロシアに渡る。帰国後、東京日日新聞社などの記者となった。戦後、衆議院議員を10年10カ月務めた。国会では、外交、文教、農業などの政策に多大な貢献をした。



葉県支部委員長であった式もその一人となった。結果、次点で落選したが、質素な運動方法で多くの得票率を得たことは党内では予想外の善戦であり、将来への望みを残した。しかし同5年、同11年と合わせて3回衆議院議員総選挙に立候補したものの落選した。

その一方、自ら日露通報社を経営し、ロシア研究を生かした論文や著作を数多く発表したが、このようなソ連に関する研究と理解は、時代の受け入れがたいものであった。

戦後、式は無産政党から保守政党に転じ、昭和21年に日本自由党に移ると、同22年4月の衆議院議員総選挙で初当選した。以来、連続5回当選を果たし、在職期間は10年10カ月に及んだ。

国会では、衆議院外務委員会の理事となり、得意である外交問題に携わった。昭和26年には文部委員長の重任に就き、難航を極めながらも義務教育費の国庫負担制度を確立。同27年8月、国土総合開発審議会の委員となり、利根特定地域総合開発計画、印旛沼、手賀沼の干拓事業に尽力した。また、同年12月には国立近代美術館評議員会評議員として同美術館の運営管理にも尽くした。

ほかにも文教政策では、教育委員会法の改正、文化財保護、学校図書館法の改正、学校給食の普及など多くの貢献をした。

昭和33年2月8日、議員会館の自室において執務中に倒れ、63歳で急逝した。宗吾霊堂に記念碑が建てられている。

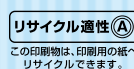
編集後記

今年もこの時季恒例の「流行語大賞」が発表されました。年間大賞に選ばれたのは、カーリング女子で話題になった「そだねー」でしたが、私はオリンピック中継を見ていなかったのが彼女たちが使うのを聞いたことがなく、ちまたで言われているその緩さを知りません。言葉自体を知っていても、発したときにもたらず効果など微妙なニュアンスまで分らなければ、正しく使うことはできませんよね。仕事柄、もっと言葉に興味を持とうと思います。

平成30年12月15日号 No.1377

成田市ホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。